

身体的主体としての人間とは何か

What is the Human Being as a Bodily Subject?

(講演内容)

主体であるということは、必然的に、身体であることを求めます。それでは、身体的主体性を規定するものは何でしょうか。講演の前半は、私の研究の中の現象学的身体論の基礎的議論に関する内容を紹介し、後半、拒食症を事例として臨床心理的実践研究に言及します。

〈講演者〉

ドロテー・ルグラン (Dr. Dorothee Legrand)

(広島大学大学院教育学研究科学習開発学講座客員准教授, フランス国立科学研究センター研究員)

(講演者紹介)

専門は臨床哲学、現象学と身体論。プロヴァンス大学大学院にて博士号(哲学)取得。プロヴァンス大学非常勤講師、フランス国立科学研究センター学術研究員(PD)、コペンハーゲン大学主観性研究センター(デンマーク)研究員を経て、2012年よりフランス国立科学研究センター研究員(第1級。第35セクション「哲学」)として活躍。また、パリ第7大学大学院精神分析学研究科修士課程を修了し、臨床心理士資格を取得。“Self-Consciousness and World-Consciousness”や“Subjective and Physical Dimensions of Bodily Self-consciousness, and their Dis-integration in Anorexia Nervosa”といった多数の研究論文を発表している。平成25年3月15日から平成25年9月14日までの6ヶ月間、学習開発学講座客員准教授。

日時 平成25年4月18日(木) 16:00 - 18:00

場所 広島大学大学院教育学研究科 K102

対象 特に参加資格はありません。テーマに関心がある方は奮ってご参加ください。事前申し込みも不要です。

参加費 無料

問い合わせ先: 広島大学大学院教育学研究科学習開発学講座

教授 樋口 聡 (higuchis@hiroshima-u.ac.jp, 内線 6847)

助教 蘆田 智絵 (cashida@hiroshima-u.ac.jp, 内線 7185)